

Departure English Expression

『グラマーノート』から『ライティング・サポート・ノート』へ

——ワークブックを3年間活用する

吉田 健三



学習指導要領では、4技能を統合的に活用できる実践的なコミュニケーション能力を育成し、その基礎となる文法の定着を図るため、両者の指導を一体的に行うことが求められている。

Departure I・II はまさに学習指導要領に合致した教科書であり、その準拠問題集が、教科書を補完し、コミュニケーション能力（文法能力、社会言語的能力、方略能力、談話能力）の習得にどのように有効か、以下に詳説したい。

◆『グラマーノート』：基礎から場面に応じた会話へ

Departure I 準拠問題集『グラマーノート』（各課4頁構成）は、教科書の文法項目の解説（1頁）、語句整序・空所補充・適語（句）選択による理解の確認（2頁）、場面に応じた適切な表現（対話・モノログ）を考える創造的な言語活動（3頁）、1～3頁の学習項目の理解を発展させるための空所補充・対話完成・日本文の英語訳（4頁）の構成で、各課の演習ができる。

たとえば、7課では「奈実が足首を捻挫したので水をいただけませんか、と部活の顧問の先生に頼みたい」という場面を設定し、学習項目（助動詞）を用いた適切な表現を考えさせ（解答例：Nami sprained her ankle. Would [Could] you give me some ice?）、文法能力だけでなく社会言語的能力の習得もねらいとしている。

◆『ライティング・サポート・ノート』：単文からパラグラフへ

Departure II 準拠問題集『ライティング・サ

ポート・ノート（以下WS）』（各課4頁構成：教科書Part1・2対応）は、Part1で文法を扱うが、表現Iの切り口とは異なり、単文の組み立てにfocusしている。つまり、「表現したい内容のイメージ→適切な語彙と文構造の選択→書く・話す」という表現プロセスを各課で学習する。たとえば、6課では、動詞に続く文構造を考える。teach/explain/adviseなど異なったformを持つ動詞を用いた表現を学習する。（例）誰かに古典の文法を教えてもらいたい。I want someone to teach me the grammar of Japanese classics.

Part1・2共通の目標のひとつは、「言い換え」（paraphrasing）の方略能力を駆使して、一見難解な日本語表現でも既知の語彙で表現できるスキルを習得し、speakingやwritingの応用活動の基礎を構築することである。（例）みんなは料理に追われている。⇒みんなは料理で忙しすぎる。They are too busy with the cooking. (Part2：7課)

Part2の最終目標は、文章に一貫性のある談話能力を発揮しparagraphで自己表現することである。（設問例）Describe one scene in a book, movie, comic, or animated cartoon that taught you a valuable lesson about life.（4課）

*Departure*の教科書準拠問題集は、表現I・IIを通して、コミュニケーション能力全般を確実に習得できるようにデザインされている。またWSのadvancedページは、大学入試問題も織り込み、受験対策としても活用できる。

（よしだ けんぞう・兵庫県立長田高等学校教諭）